



ジェントルハート通信

No.67

2023年 夏号

発行:NPO法人ジェントルハートプロジェクト 発行日:2023年8月1日

URL:http://npo-ghp.or.jp Tel. +Fax. : 045-845-3620(小森)

定価:100円(会員無料)

「25年目の夏に思う」

代表理事 小森新一郎

私たち夫婦が娘の香澄をいじめ自殺で失ってから今夏で四半世紀(25年)になります。存命であれば今年41歳の誕生日を迎えるはずでした。今でも「どうして守ることが出来なかったのだろうか」といった自責の念に駆られることがよくあります。

娘の亡くなった当時から、私たちなりに「娘の死を無駄にしないためには何をすべきか?」という自問自答を繰り返しておりましたが、その新たな出発点としてNPO法人ジェントルハートプロジェクトの設立という形に至ったという経緯があります。

法人設立当初は学校や教育現場に伺い、子どもたちの現状を把握することからのスタートでした。当時私たち夫婦は裁判を抱えており、並行して活動することは、かなり気を使う部分も多かったのですが、裁判を通じて多くのことを学ぶことが出来たと思います。

法人設立以降、多くの学校等に伺うことで、現場での「先生方の生の声」や私たちの財産となっている講演後の感想文から伝わってくる”子どもたちの切実な声”をたくさん受け取ることが出来ました。そのような声を聞けば聞くほど、いじめ問題の根深さや複雑さ、困難さを感じるようになりました。

活動初期は「被害児童生徒の心のフォロー」ばかりに目が向いていましたが、問題解決へ向かわせるためには「加害児童生徒への心のフォロー」も同様に、いや、それ以上に必要であると考えようになりました。そして、その加害側へのフォローを有効的に行うには教員サイドへのエンパワーメントを強力に推し進めなければならないと考えようになったのです。

こういった考えで活動をしている中、「いじめ防止対策推進法」の成立は画期的なことでした。しかし現場への浸透度は低調なままです。真剣に取り組めば救えた命もたくさんあったのに・・・と悔しい思いをすることも多々あります。

最近子どもたちを取り巻く社会環境も厳しくなっており、それぞれが大きな問題ですが、同時多発的にいくつも露呈しています。

いくつか大きいものを例示すると

- ① 小中高生の自殺者の激増。
- ② いじめ認知件数の激増
- ③ ひきこもりの激増と高齢化の問題
- ④ 小中高校生の不登校激増

- ⑤ 子どもの貧困問題
- ⑥ 教員不足の問題
- ⑦ 奨学金貸付残高増加問題
- ⑧ 超少子化問題

メディアで取り上げられ、皆さんがよくご存じのものだけでも、このように問題が山積しており、今でもこの現状に対して有効な手立てを打てない状況があります。

また、これら以外のことに目を向けてみても、入国管理法改正やLGBTQ理解増進法など、人権に関わる問題に対して深く議論をすることもなく、安易に国会を通過させているように感じています。

今の日本では一般の人々の生活に関連する多くの予算が削減方向に進んでいます。

市民の側の人権意識が希薄であることの裏返しとして、行政が子ども関連の施策にお金をかけないという状況が作り出されるのではないのでしょうか。

行政がこういった体質を引きずり、また、歪んだ自己責任論が世間に蔓延し、人々の優しさに対する気持ち薄れているこの国だから、いつまで経っても子どもに関わる問題が改善されないのではないかと感じています。「子どもど真ん中」などの耳障りが良いだけで曖昧で意味不明な言葉の裏で、何か実効性のある施策が行われているのか、注意深く推移を見守っていかなければならないと思っています。

私はいじめがなくならないのは、日本における人権意識の脆弱さに起因する部分が大いのではないかと推測しています。

この国でも昔から国籍や出自に対しての著しい差別や排斥運動など、大きな人権問題を抱えていた時期がありましたが、その時の記憶が現代人の深層心理の奥深くに棘のように刺さり、人々の行動にも影響を及ぼしているのではないのでしょうか。

私はこうした差別感情のようなものが、いじめ問題解決にとって、大きな心理的障壁になって立ち塞がっているのではないかと考えています。

優しい心で人々がつながりあう心地よさは、人々の心に安らぎをもたらします。私たちは、こういった考え方(心の安寧)を多くの教育現場で伝え、広げていきたいと思って活動しています。

皆さんたちと共に、改めて人権という言葉について、深く考えていきたいと思えます。

「講演会での感想文」

コロナの蔓延以降約3年半ほどの期間、外出もままならず、人々は大きな制限の中不自由な生活を強いられていたことと察します。しかし、今年の4月から少しずつですが講演に動きが出てきております。

直接学校に訪問できる機会も増えてきましたが、学校現場ではコロナだけでなく、インフルエンザによる学級閉鎖も発生してまいりましたし、その他熱中症への対応等、様々な配慮が必要な状況になってまいりました。

それらの対応を先生方と相談しながら講演会を開催させて頂くのですが、子どもたちの反応は以前と変わらず、小学生向けのワークショップでは元気な声を響かせてくれました。傷つく言葉を探す時には、「死ぬ」という言葉にひととき大きな反応を示します。また、「心が傷つくってどんなことだろう？」と想像しながら、自分の心になぞらえた赤いハートの紙をグチャグチャにする時も、声と体で大きく反応します。そこで今回は、小学校1～3年生の感想文をご紹介します。小1から小3の感性、表現力、そして何よりも小さな子どもたちの心を覗く一つのきっかけになるのではないのでしょうか。

私は、講演の中で感想文にある「暴言」「人権」「矢」という言葉は使っていません。このことから子どもの感性の鋭さを感じて頂けると思います。

命って何？心って何？生きるって何？子ども達と楽しく哲学出来る自分を、改めて「幸せ者だなあ」と思う今日この頃です。原文のままですが、長文のものは一部抜粋としています。

◆ 小1女子

これからやさしいことばをつかいたいです。たとえば、ありがとうとかあとすごいね ということばをつかいたいです。わたしは、あいてがえがおになれることばをあいてにゆいたいです。はっぴいになれることばをつかいたいです。だれかがころんじやったときにすぐにだいじょうぶってゆいたいです。けがをしたときにすぐにほけんしつにいかせたいです。

◆ 小1女子

やさしいことばをいいたいです。だいすきなこのがっこうにいたいです。やさしいおんなのこにそだちたいです。いろんなおともだちとなかよくしたいです。すごくやさしくなりたいです。ともたちをいっぱいつくりたいです。みんなとなかよくなりたいです。みんなささえあってなかよくしたいです。みんなじゅうのつばさをもっている。いろんなきもちがある。

◆ 小1男子

ぼくはいじめられるのわやだです。ぼくはいいことおすのすきです

◆ 小1男子

すごくころのなかのことがしれてよかったです。じぶんがいつかはいけなことをしれてよかったです。

◆ 小1女子

ほんとにじんけんはたいせつなんだ一なてわかりました。ころをきずつけるひとはだめだとおもいます。ひともきずつくしころもきずつくからだめだとおもいます。ころはほんとのほんとにいのちにかかわっているのかとおもいます。

◆ 小2女子

じんけんってこんなことするってまだわたしは、しりませんでした。人がおなくなりになるのは、本とうに

かなしいということがよくわかりました。私はおとなになったら子どもをうみます。だけどもしかしたらわたしもおとなにならないかもしれません。わたしが子どもをうんでそのままさいごまでいきさせられるようがんばります。じんけんのことをおしえてくださってありがとうございました。

◆ 小2女子

わたしはいろいろなことがころのこりしました。みんなといっしょずっといきたいとおもっています。わたしはパパママとずっといっしょにいたいです。なにがあってもずっとおなじです。わたしは、みんなのことが大好きです。わたしはまいにちみんなとすごくいきもちでみんながあんぜんにできたとすごくおもいます。かえるときもいつもあんぜんにしたいとおもいます。きょうはいいきもちで学校がおわれたとおもいます。

◆ 小2女子

わたしはわる口やぼうりよくをしたくないし、やられるのもいやだからわる口やぼうりよくをしません。これからもいじめやぼうりよくはぜったいにしません。いじめをするとともだちがかなしんだり、つらい思いしちゃうかもしれないし、じぶんもいやな気持ちになるかもしれないから、いじめなんかぜったいにやりません。

◆ 小2男子

なやんでいるともだちがいたらこえをかけてあげたいです。

◆ 小2女子

うれしいことばとかなしいことばが、ちゃんとなんかころにつたわって、うれしいことばだったら、ころがあたたくくなって、かなしいことばだったらころがキズつくんだ。ってちゃんとくわしくわかったので、あのなんかすごいな～。って思いました。

◆ 小2男子

かなしいきもちになってちょっとないちやいそうになってぼくはやっぱりいじめをうけているのがいたらたすけたいです。ぼくもいじめにあいたくないです。

◆ 小2男子

きょう話を聞いてちょうどふわんなことがあってでもかすみさんみたいにじさつしないようにしたいです。ふわんなことはさいきんたいへんなこととかつかれたりして気ぶんがよくなって、でも人をふあんにさせたりしたくないと思います。これからはあかるいみらいにしたいです。

◆ 小3男子

ぼくは、人をきずつけたりされたりし心の矢となりさいやくじさつしちゃうこともあるんだなと思いました。心の矢はささったらもどるのに時間がかかりたつんだな一と思い、かすみさんのやさしい心が一番大じと言う言葉をききぼくはこれから人のハートを一つもきずつけないようにがんばりたいです。

◆ 小3男子

ぼくはいじめのことをきいていじめはこんなに人をきずつけることなんだなと知れました。お母さんに言われるんですけど「いじめをされたらしかえしちやだめだよ」と言われます。いじめをしたくない気持ちになりました。やさしい言葉はいいけれど、悪口とかいじめをしたら心がこわれていくんだなと思いました。かすみさんもそんなきもちでいじめをうけていたんだという事かもしれません。

◆ 小3女子

わたしは今日のべんきょうかいでわかったことはいのちはたいせつということといのちはひとつしかないということです。わたしはちょっといじめたこともあるしいじめられたこともあるのでりょうほうのきもちがわかります。でもいじめしたらじぶんもいやなきもちになるしされたがわもいやなきもちになることをきづいたのでいじめはやめたほうがいいことにきづきました。

◆ 小3男子

ぼくはぼうげんやいじめをやってしまったことがあります。でも今日のじゅぎょうでそのことはわるいことなのだとじっかんしました。なのでこれからいじめてしまった友だちにあやまりもうしないようにしたいです。

◆ 小3男子

ぼくは「しね」や「きえろ」と言われたほうは本当にいやな気持ちになります。けれど言ったほうもやな気持ちになります。なぜなら言ったほうは言ったときは、いい気持ちやおおったりします。けれどその後いつも

いっしょに遊んでいる大好き友だちに「しね」といってその後に「しね」って言ったから遊びたくないって言われてこうかいしてしまいました。こうかいしないように友だちが「しね」や人にたいして「やだな」と思うことを言っていたら今日のことを思いだして止めてあげたいです。

◆ 小3女子

わたしは心をだれかにきずつけられると一生なおらないまま生きていかなければいけないんだなと思いました。わたしはやさしい心を大切にして生きていきたいなと思いました。いじめは人の心をきずつける物なのでぜったいやってはいけないなと思いました。やさしい心をもっていると一人ぼっちの子もかならず助けあげられるのでたいせつにしたいです。

◆ 小3女子

もし自分や友だちが、心をいたい思いにするのは、よくないと思います。それをしたら、それをやられたら、それをやったらどうなるか、考えてから行動した方がいいと思いました。わたしも、された事もあるんですけど、やっぱり心がいたくなってました。やられたら、その子をはじめよりすきじゃなくなっちゃいます。もし自分がやったつもりじゃなくても、もしかしたらやっちゃっていたら、あやまってもゆるされなかもしれません。自分もいたいおもいやかなしい思いやつらい思いをしないように生きていきたいです。

◆ 小3男子

ぼくは友だちにいわれたらいやな気もちになることばをいってしまったことがあります。ぼくは友だちにいやな気もちになることばをいわれたことがあります。なので友だちから人に悪口をいってはいけないとゆうのがわかりました。なのでぼくは人がやなことされていやなきもちになる日々ではなくて、みんなが言われてうれしい日々になるといいなとおもいました。

◆ 小3男子

ぼくは今日のじゅぎょうをうけて、心にささった「わるい言葉の矢」はじんせいいっしょうぬけないんだなとおもいました。

けんかはいじめの一つなのかな～？

いじめは何回も何回もつづく心がいたむと分かりました。ぼくは前、いじめをしている所を見たので、次、そういうことがあったらすぐに止めてあげたいです。



当法人理事の中谷加代子が『命のスケッチブック』を出版しました。子どもたちに大変読みやすく構成されています。大人と子どもが共に命を考えるきっかけになりましたら幸いです。

山口県在住の中谷加代子です。ジェントルハート通信の紙面をお借りして昨年11月に出版された「命のスケッチブック」をご紹介します。

この本は、私の「語り」をもとに、小説家で児童作家でもある小手鞠るいさんが子どもたちに向けて、構成と執筆をしてくださったものです。本なんて無理だと思っていた私に、ある日、出版社からご連絡をいただき、私は何もしていないのに本の形にしてくださいました。静山社の荻原さんにも、小手鞠るいさんにも、深く感謝しています。

私は二十歳の娘を殺人事件で亡くした母親ですが、なぜ私が語っているのかを疑問に思われる方もいらっしゃると思います。高専5年生だった娘が同級生の少年に殺害されて以来、「なんで、どうして」とずっと考えてきました。そして行き着いたのは、「彼が生きることを真剣に考えてくれていたら、そして周りの人のことを大切に思ってくれていたら、事件は起きなかった」ということです。

忙しい毎日の中で、命について深く考える人がどれほどいるのでしょうか。少なくとも事件前の私は、命について掘り下げて考えるような人間ではありませんでした。私がそうだったように、立ち止まって「命とは何だろう」、「生きるとは、どういうことか」と思い巡らすのは、なかなか気が向かないものだと思います。子どもたちには、いろんな人の人生の話、聞いたり、読んだりして、「命」のこと、

そして「生きる」ということを考えてほしいと思っています。

更に、私にとって誰かに語ることは、娘の歩（あゆみ）と一緒に生きる濃密な時間になっているということがあります。

歩は、男女を問わずお友達の多い子でした。はつらつとした学校生活を送る姿は、親から見ても羨ましく感じたほどです。その歩ならどうするか。学校で「こんな話をしてみようと思うけど、どう思う？」、受刑者に「歩だったら、何て声をかける？」「こんな質問はどうか？」と問いかけます。それが自分への問いなのか、歩に問いかけているのか、境界は曖昧ですが、それでも心に「歩の存在」を感じることができます。語り続けることは、歩を感じ続けることでもあります。私の問いかけに、歩は「いいんじゃないの」「やってみれば」と応え、いつも私の背中を押してくれます。今回の本のお話は、そんな歩からのプレゼントだと思っています。いつの日か、歩にまた会えたとき、「一生懸命生きたよ」「よく頑張ったね」と話すことを夢見しています。

この本の基となった「語り」についてご紹介しましたが、これからを生きる子どもたちには、ぜひ「命のスケッチブック」を読んで、命のことを考える機会にしてほしいと願っています。



命のスケッチブック

● 中谷加代子：語り
● 小手鞠るい：構成・文
● 四六上製 ● 112頁

価格：1,320円（税込）

静山社 978-4-86389-728-1

命ってなんだろう。
生きるって、どういうことだろう。
どうすれば、幸せに生きていけるのだろう。
本当に大切なものってなんだろう――。

◆ある事件で娘を亡くした母の「生きる」ための授業。

この本は、ある事件で大切な娘を亡くしたおかあさん、中谷加代子さんが、小学校や矯正施設で行った講演をもとにして作られました。

「みなさん、ときどきね、自分に自信がなくなってしまうたり、自分の価値や生きてる意味がわからなくなったりしたらね、思い出してほしいの……」 (本文より)

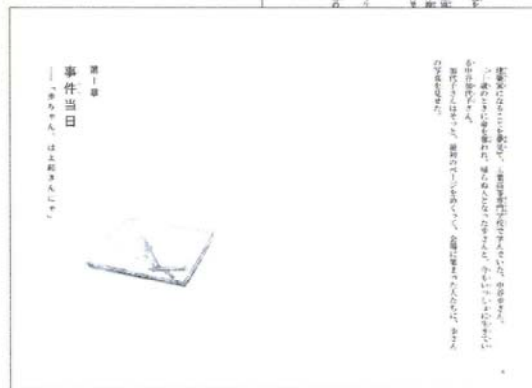
中谷さんのことばをヒントに、みなさんもぜひ考えてみてください。

語り 中谷加代子

2006年、当時高等専門学校5年生の長女を、学校内の研究室で同級生の少年に殺害され亡くす。2012年、防府市役所を早期退職し、被害者の視点に立った被害者支援にたずさわるように。現在、学校や矯正施設などで「命」「生きる」をともに考える活動に取り組んでいる。

構成・文 小手鞠るい

1956年生まれ。小説家。大人向け、児童向けの著書多数。中谷さんの語りに胸を打たれ、子どもたち、大人たちに「命とは?」「生きるとは?」について考えて欲しい、親子で話し合う時間を過ごして欲しいと願って、本作の構成と執筆を手がけた。ニューヨーク州ウッドストック在住。



お求めはお近くの書店へ。

この本に関するお問い合わせは、静山社まで

TEL 03-5210-7221 / <https://www.sayzansha.com>

◆ 活動のご報告と今後の予定 ◆

日付	主催者	都道府県	都市	人数
2023/1/20	総社市人権教育指導者研修会	岡山	総社	100
2023/2/3	目黒区小中学校人権教育推進校事例報告会	東京	目黒	50
2023/2/6	港北区人権啓発講演会	神奈川	横浜	500
2023/3/7	遊学館高等学校	石川	金沢	350
2023/4/13	藤嶺学園藤沢中学校	神奈川	藤沢	80
2023/4/17	豊昭学園(DVD)	東京	豊島区	340
2023/4/18	東海大学附属市原望洋高等学校	千葉	市原	290
2023/4/20	宇都宮文星女子高等学校	栃木	宇都宮	300
2023/4/25	蓮田市中心部人権擁護委員会研修	埼玉	蓮田	30
2023/5/12	真宗大谷派難波別院	大阪	大阪	50
2023/5/13	足立区立千寿本町小学校	東京	足立区	130
2023/5/27	神奈川学園中学校	神奈川	横浜	210
2023/5/30	宇部工業高等専門学校(DVD)	山口	宇部	1,000
2023/6/10	関東学院中学校	神奈川	横浜	600
2023/6/17	野田市立第一中学校	千葉	野田	800
2023/6/21	台東区立東浅草小学校	東京	台東区	270
2023/7/4	野田市立関宿中学校	千葉	野田	80
2023/7/11	北区立浮間小学校	東京	北区	270
2023/7/12	野田市立岩名中学校	千葉	野田	520
2023/7/18	野田市立第二中学校	千葉	野田	330
2023/7/25	滋賀県総合教育センター初任者新規養護教諭研修(DVD)	滋賀	野洲	410
2023/9/20	都城工業高等専門学校教員研修	宮崎	都城	60
2023/9/26	箱根町立箱根中学校	神奈川	足柄下郡	50
2023/9/28	石川県立金沢辰美高等学校	石川	金沢	80
2023/10/2	TBC学院小山校	栃木	小山	90
2023/10/18	瀬戸内市立牛窓中学校	岡山	瀬戸内	120
2023/11/2	京都府丹後教育局教員養成セミナー	京都	宮津	35
2023/11/16	柏市立土中学校	千葉	柏	290
2023/11/17	岡山県立備前緑陽高等学校	岡山	備前	510
2023/11/20	高梁市立川面小学校	岡山	高梁	70
2023/11/21	赤磐市立赤坂中学校	岡山	赤磐	90
2023/12/1	市川市立東国分中学校	千葉	市川	450

【 会員の皆様へ 】

コロナ禍において多くの制約を受ける中、従来の活動も思うように出来ず、会員の皆様にはご心配及びご迷惑をおかけしておりますことを、心よりお詫び申し上げます。

只今ホームページのリニューアル及びシステムの見直しなど、再始動に向けて鋭意作業を進めている途中であり、今しばらくお時間を頂きたいと考えております。また、会員の皆様におかれましては、前回お知らせした会員納入期限の2年間の延長措置を次回のご案内まで再延長させて頂くことに致しました。どうぞご理解頂けますよう、よろしくお願い致します。

インバウンドの増加やノーマスクの増加など、社会的にも動きが出てきている反面、コロナの第9波も広がっており、いまだ予断を許さない状況が続いています。会員の皆様におかれましてもお体に十分留意されると共に、大変な時期を一緒に乗り切りたいと思っております。